

佳作

地きゅうはきせきの星

東京都 東京創価小学校二年 金子 香織

わたしは、ことしの夏休みに、名古屋のおじいちゃんとおばあちゃんの家に行きました。名古屋市科学館のプラネタリウムに家ぞくで行きました。このプラネタリウムは、世界さい大です。そこで、「火星大せつきん」を見ました。ちょうど火星が地きゅうにちかづいた七月三十一日に、わたしも家のベランダから見ました。まわりの星よりも明るく赤く光っていました。火星は大むかしにうみがあり、生ぶつがいたかもしれないと聞きました。わたしは、すごいと思いました。もっとうちゅうのことをしりたいと思い、家に帰って、ずかんを見たり、太ようけいのどう画をお母さんといっしょに見ました。太ようけいの中で地きゅうだけがうみがあり、たくさんの生ぶつが生まれたことがわかりました。どうして火星のうみがなくなり、地きゅうだけうみがこの

ったのかふしぎに思いしらべました。地きゅうは、火星よりも大きく、水を引きとめる引力があるそうです。いろんなぐうぜんがおきて今の地きゅうになったのです。わたしは、地きゅうはきせきの星だと思いましたが、その地きゅうをもっと大切にしたいかなければいけないと思いました。どうしたらいいのをお母さんと話しました。せつ電したり、ゴミを出さないようにすることは、地きゅうをまもることにつながるとわかりました。わたしは、自分からゴミひろいをするにしました。それで地きゅうがもっときれいになってほしいと思いました。つぎの日、お父さんといっしょにきんじよのゴミひろいをしました。ゴミは、一こしか見つけられませんでした。お父さんが、

「ボランティアの人たちがときどきゴミひろいをして、教えてくれたからきれいなんだよ。」

と、教えてくれました。わたしが気づいていないところでごんばっている人たちがいることをしりました。二回目ゴミひろいをしたときは、前よりも多くゴミをひろいました。こまかいゴミを見つけられました。おじいさんが、
「おはよう。」

と、元気にあいさつしてくれました。わたしは、とてもうれしくなりました。

わたしは、これからもゴミひろいをつづけて、きせきの星、地きゆうを、すこしでもまもっていきます。